

# 許せません!

## 亡国の TPP交渉参加

安倍首相は2月22日の日米首脳会談後、TPP（環太平洋連携協定）参加を「早い段階で決断」する意向を表明しました。国の主権にかかわる大問題に、国内での十分な議論も情報提供もおこなわず、突き進むのは断じて許せません。



### 日米会談で“聖域確保”(安倍首相) ——まったくのゴマカシです

「『聖域なき関税撤廃』が前提でないことが明確になった」——安倍首相はいいますが、首相のいう“聖域確保”は、交渉で例外扱いを主張できるということで、重要な農産物を関税撤廃の例外として確保できる保証はまったくありません。

日米共同声明では、すべての品目が自由化交渉の対象になり、交渉参加国がすでに合意している、「包括的で高い水準の協定を達成する」ことも確認しています。関税および非関税障壁の撤廃をめざすというTPPの原則を認めたもので、「例外確保」というのは国民をあざむくものです。

### 「関税」以外の“公約”は無視!

TPP交渉は関税以外にサービスや投資、食の安全、知的財産権など広範な分野を対象にしています。だからこそ自民党は、国民皆保険制度や食の安全・安心を守る、国の主権を損なうISD（投資家対国家紛争）条項反対なども公約したはずですが、この点で何の確認もないままの交渉参加は明確な公約違反です。

#### 「百害あって一利なし」のTPP

TPPに参加すれば、わが国の農業の壊滅的な打撃は避けられません。食の安全や雇用、医療、金融などの制度や基準も、弱肉強食の「アメリカ型ルール」が押し付けられ、暮らしと経済は大打撃を受けます。「日米同盟の強化」の証として、国民に「百害あって一利なし」のTPP参加に踏み出すのは、国を売り渡す「亡国の政治」にほかなりません。

「ストップTPP」  
の一点で

## 国民のみなさんと 力をあわせます

## 日本共産党

